

藤野エリア / 藤野の取り組み

藤野エリアは、芸術活動と持続可能な生活様式の組み合わせを特徴としています。藤野は 2007 年に近くの相模原市と合併し、相模原市の区に指定されましたが、芸術的で先駆的な精神を保持しています。住民は今でもこの地域を正式名称の緑区ではなく藤野と呼んでいます。

地域の発展

歴史的に、藤野は山岳地帯に小さな農場が点在する静かな農業コミュニティとして知られていました。

明治から 1950 年代までの主要な伝統産業は炭焼き、養蚕、機織りでしたが、第二次世界大戦後、エネルギー源としての木炭の使用が減少したことや、織物の発展によりこれらの産業は衰退しました。

20 世紀初頭、東京の西に 2 つの主要な芸術大学が設立されました。武蔵野美術大学（小平）と多摩美術大学（八王子）です。それ以来、田園風景と都心へのアクセスの良さを求めて、藤野は都会のアーティストを魅了してきました。

持続可能な生き方

藤野は、地元の資源、農業、伝統を利用して自給自足を高める持続可能なコミュニティです。これは、トランジション タウンとして知られるプロジェクトの国際ネットワークであるトランジション ネットワーク

の一部であり、その目的は、パーマカルチャーの原則を適用してコミュニティを活性化することにより、自給自足を高めることです。パーマカルチャーとは、持続可能な方法で食料、エネルギー、住居、その他の物質的なニーズを提供するために、環境と人々を調和的に統合することです。この原則は、石油価格のピーク、気候変動、および経済的不安定の潜在的な影響を軽減することにより、持続可能な人間環境を作り出すライフスタイルを設計するための実用的な方法として、オーストラリアで生まれました。

藤野のトランジションタウンの活動の一環として、行政は住民の自立を支援することを目的としたワークショップを開催しています。これらのワークショップの 1 つが月例の太陽光発電システムワークショップで、参加者は太陽光発電パネルとバッテリーを接続して家庭用太陽光発電システムを組み立て、セットアップする方法を学ぶことができます。村には独自のエネルギー共同体があり、一部の家に部分的な電力を供給したり、動物から畑を守るために電気柵を充電するために使用されます。

藤野には、住民間のコミュニケーションと相互支援を促進するように設計された、よろずや（「雑貨店」のようなもの）を中心とした独自の通貨システムがあります。このプロジェクトは 2009 年に 15 人の個人メンバーで開始され、現在では 400 世帯以上が参加するまでに成長しました。このシステムには、物々交換スタイルで商品やサービスを提供するコミュニティのメンバーが関与し、それによってより持続可能な生活様式を促進し、商取引が藤野内にとどまるようにします。

システムは通帳を使用して動作します。メンバーは、連絡先の詳細、提供できるサービスや製品の種類に関する情報、およびそれぞれの費用とともに通帳を共有することにより、相互に取引します。通貨の単位は萬（よろず）と呼ばれ、1 円の価値があります。各メンバーは 0 萬からスタート。会員が他の会員にサービスや商品を提供すると、彼らは萬を受け取ります。会員がサービスや商品を購入すると、通帳から萬が引き落とされます。各参加者は、取引後に相手の通帳に署名して正式なものにします。参加者は、萬を使って商品やサービスの交換をしたり、藤野市内の加盟店で飲食や買い物をすることができます。各事業者は商品ごとに一定量の萬のみ利用ができるようにしており、萬はすべての費用をカバーすることはできません。

アート関連の活動

第二次世界大戦の終わりにかけて、東京の最も著名な芸術家の何人かは、首都から比較的安全な藤野の田園地帯に避難しました。アーティストの目標は、東京の空襲を逃れ、芸術活動を続けることでした。芸術家の最初の波には、日仏の画家で版画家の藤田レオナルド（1886–1968）などの著名人が含まれていました。この地域での創造的な活動に惹かれて、すぐに他の人が続きました。1970 年代から 1980 年代にかけて、外国出身の芸術家、画家、陶芸家、織工なども、その静かな環境に惹かれて藤野に移住しました。現在、藤野市（人口約 8,300 人）には 300 人以上のアーティストが暮らし、活動しています。

在住アーティストの 1 人は、藤野にある築 150 年の元絹生産農家に住み、働いているカナダ人のブライアン・ホワイトヘッドです。ブライアンは蚕を飼育し、その絹繊維を使ってテキスタイルを生産し、それを彼が栽培して発酵させたインディゴで染色します。藍の葉から天然染料を調合し、翌年に再び収穫できるように種子を保存します。絹は伝統的な織機で織られています。

藤野芸術の森は、市民や観光客、企業の慰安旅行など多目的に利用できる芸術センターとして、1995 年に建設されました。300 席のコンサートホール、バンドの練習やレコーディングができる音楽スタジオ、ホテルやテントなどさまざまな宿泊施設を備えています。陶芸、木工、ガラス工芸、天然藍染めなどのワークショップも開催しています。会議室は、会議や合宿にも利用できます。

里山体験

藤野は集落と農地、用水池、二次林、植林地、草原からなる里山であり、日本の地方の集落が自然環境と共生してきた伝統的な地域です。農家民宿を体験し、住民との里山体験を通じて現地の暮らしを学ぶことができます。絹織物、生け花、藍染めなどの伝統文化や、収穫、ヤギ・ヒツジ・ニワトリの飼育、保存食づくりなどの農作業を体験できます。

将来の目標

最近では、仕事をするのにリラックスできる場所であり、東京への通勤のしやすさから、専門家たちが藤野に惹かれています。質の高い教育や多様な人口など、子育てにもメリットがあるため、家族もこの地域に移り住んでいます。

トランジション タウンの頭文字 TT は、たのしく (たのしく) と つながる (つながる) の頭文字でもあります。これは藤野市において、居住者がワーク・ライフ・バランスを取りやすい環境づくりを目指していることを反映しています。TTムーブメントは、地域の方々の温かいつながりを通じて、地域の人々の強く、安心して幸せな暮らしを創造する活動です。